

日本語セミナーコース「観光の日本語」の実践報告 —ツアーガイドの模擬体験を通して学ぶ日本語—

井手友里子・土居美有紀

要 旨

「観光の日本語 (Japanese for tourism)」は、観光産業に特化した接客敬語をツアーガイドの模擬体験を通して学んでいくコースで、将来日本語を使って仕事をしたいと考える学生のキャリア選択の一つを提供することを目的の一つとしている。本稿では、2022年春学期の実践概要とアンケート調査結果を報告する。

各回の授業では、ツアーガイドが経験する様々な場面を設定し、その場面で自国を訪れた日本人観光客をガイドするタスクを課していった。現実的な状況で運用練習を行うことで、接客敬語を身に付けることを目指した。アンケート調査では、実際に使う機会がない敬語を現実に近い状況で練習できることを評価するコメントが見られた。また、ガイドを将来のキャリアの選択肢として捉えている学習者が多く、本コースでの日本語学習をキャリアと結び付けていることがうかがえた。

キーワード：観光、中上級日本語、敬語、キャリア、ツアーガイド

1. はじめに

「観光の日本語 (Japanese for tourism)」は、主軸である日本語コースの他に選択科目として開講されている日本語セミナークラスである。2018年秋学期 (9月～12月)以降、現在に至るまで執筆者2名が担当している。執筆者らが設計した本実践は観光産業に特化した接客敬語をツアーガイドの模擬体験を通して学んでいくもので、将来日本語を使って仕事をしたいと考える学生のキャリア選択の一つを提供することを目的の一つとしている。将来日本で働きたいと考えている留学生は多いが、そのような学生全てに日本で就労の機会があるわけではない。自国で日本人観光客を案内するツアーガイドは、日本語を活かして働く仕事として現実的な選択肢の一つだと考えられる。本稿では2018年から始めた実践のまとめとして、2022年春学期の実践とアンケート結果を報告する。

2. シラバス作成

2.1. シラバスの枠組み

国際交流基金の「日本語教師の役割／コースデザイン」(2006)によると、シラバスとは教える内容を並べたリストであり、コース全体の学習項目のリストをコースシラバスと言う。シラバスには、文型を中心に学習項目を並べた「文型シラバス」、言葉を使って何かの機能を達成するという言葉の「機能」を中心に学習項目を並べた「機能シラバス」、レストランなどの「場面」を中心に学習項目を並べた「場面シラバス」、家族や教育など、話題(トピック)で分類した「話題シラバス」、読む・書く・話す・聞くの4技能をさらに細かく分類した技能を学習項目として並べた「技能シラバス」がある。また、いくつかのシラバスを組み合わせたものを複合シラバスと言う。観光日本語の教材は「場面」や「機能」シラバスが採用されることが多い。

2.2. 先行研究

日本語ガイドのための「観光日本語」のシラバスデザインについて述べたものには、ラクトマナナ(2006)、ソブタ(2010)、ゴンザレス(2013)などがある。ラクトマナナ(2006)はマダガスカル日本語ガイドへのアンケートやインタビュー調査や関連資料の分析などから、ガイドが日本語で業務を行う際に遭遇する場面を調べ、ツアー客に情報を提供する、またツアー客の情報要求に応える場面を中心にそこで必要な文型・表現や語彙を選定し、場面・機能シラバスを作成した。対象は旧日本語能力試験3級相当で、空港、バスの中、ホテル、レストラン、観光地、おみやげ屋の6つの場面で会話が展開されている。シラバス項目には、場面(特定の「場所」でガイドが行う具体的「行動」を業務の流れに沿って配列)、機能(挨拶、話の切り出しやサービスの申し出などの意思表示、観光地の案内やスケジュールの説明、注意事項の説明などの情報提供、質問や客の状況確認の際の情報要求、指示・注意助言などの行動の促し、その他)、文型・表現、語彙の4つの項目をたてている。

ソブタ(2010)は、モンゴルの観光日本語に特化したコースのため、場面(流れのステップと具体的行動)、文法、語彙、ガイドのマナー、ツアー客の質問の5つの項目からなる、場面シラバスを作成した。場面は、空港、バスの中、ホテル、レストラン、お土産物屋、の5つで、日本人ガイドの発話や既存教科書を参考に対象者である初級終了者に合わせた会話を作成した。

ゴンザレス(2013)は、日本語能力試験N4相当を対象に、場面、機能、例文、文型・表現、語彙、ガイドのマナーの6つを柱とした場面・機能シラバスをキューバの日本語ガイドのために作成した。表現や文型は、既存の教科書や、日本やキューバの日本人ガイド

の発話から取り出している。ガイドのマナーについては、日本の旅行会社の社長へのインタビューを基に分析し、身なり、笑顔での歓迎、客が設備を確認するまでホテルを出ないなど、日本人を不快な気持ちにさせないような注意点が記してある。

2.3. 「観光の日本語」のためのシラバス

このコースは、学生のキャリア選択の一つを提供するという目的があり、適切な場面で適切な表現が使えるようになることを目指しているため、場面・機能シラバスを作成した。実践に即した内容にするために、職業情報サイト¹⁾に掲載されている「海外ツアーガイド」の業務内容を参考に、「空港への出迎え」、「滞在先までの送迎及びチェックイン」、「観光案内」、「ショッピングのサポート」、「レストランや食事の手配」の5つの主要な場面を取り入れたシラバスを作成した。観光日本語の教科書の文型・表現、日本人バスガイド²⁾が使っている文型・表現（ヤサカ観光バス株式会社2015）、通訳案内士試験の対策本（新日本通訳案内士協会2018）を参考に、ガイド業務に必要な文型・表現や語彙の選定しつつ、会話を作成した。

また本コースでは、接客に特化して敬語表現を学ぶが、接客において重要な「相手を不快にさせないように適切な表現を使ってわかりやすく説明できること」も目標としている。先行研究では、コミュニケーションに必要な日本語力さえあれば日本人観光客の不安は取り除けるので、海外の日本語ツアーガイドの日本語能力を鑑み、ですます体での会話を中心とし最低限の待遇表現の導入にとどめているものが多いが、このコースは中上級レベルが対象であり、もっと敬語を勉強したいという受講者のニーズを反映し、対人関係に配慮した表現、間接的に意図を伝える表現を積極的に導入し、日本人ガイドが実際に使用している洗練された敬語や丁寧表現を自然な形で導入できるように工夫した。

また、通訳案内士試験では、場面ごとの対応とプレゼンテーションという口頭能力の2本柱が求められていることから（新日本通訳案内士協会2018）、上記の場面ごとの対応以外に、プレゼンテーション能力の向上もはかりたいと考えた。よって、空港やホテル、観光施設などでの一般的なガイド業務に沿った会話の他、観光資源の文化・歴史的背景を解説するという通訳案内士試験のプレゼンテーションに当たる「解説タスク」を組み込んだ。

様々な国からの留学生が履修している特徴を考慮し、モデル会話の丸暗記ではなく、必要な表現と会話の流れを使ってある程度自由に各自が自分の国のガイドができるような会話になるように教材を工夫した。

3. 実践の概要

3.1. 対象者

本コースは選択科目であり、日本語中上級レベル（Intensive Japanese IV）以上が対象である。2022年春学期（1月～5月）の受講者は7名であった。学習者の出身国・地域は多岐にわたり、イタリア1名、インドネシア1名、台湾1名、中国1名、フランス3名が受講した。なお、2022年春学期はオンラインで開講し、受講者は全員自国からzoomで授業に参加した。

3.2. コース全体の流れ

本コースの目標は、日本から自国を訪れた観光客をガイドする上で必要なスキルや知識、言語運用能力を身に付けることである。

まず、初回の授業では、日本で英語圏からの外国人観光客をガイドする通訳案内士の仕事を紹介するビデオを視聴し、観光ガイドに求められるスキルや知識を考えさせた。また、レディネス調査もかねて敬語の基本的なルールや言葉を復習した。2回目以降6回目までのコースの前半は主に空港の出迎えやホテルのチェックインなど、観光ガイドが経験する場面の会話を通して、観光客を案内、サポートするための敬語表現の習得を目指した。後半は、その国や地域の名物などを通して歴史や文化を詳しく解説するタスクを課した。前半は「ガイドとして案内や指示をすること」を行動目標として、国や地域を問わず応用できる表現やスキルを扱ったのに対して、後半は「出身の国や地域の風土、文化、歴史、社会についてわかりやすく解説すること」を行動目標とし、敬語表現ではなく説明の流れや構成を学習項目とした。最後に、期末プロジェクトとして、練習した場面の会話や解説を組み合わせて1日の観光プランを作成し、バーチャルツアーのガイドとして発表してもらった。

3.3. コース前半の授業の流れ：案内や指示の会話

コース前半の2～6回目までは第二章で述べた職業情報サイト³⁾にある「海外ツアーガイド」の業務内容のうち「空港への出迎え」、「滞在先までの送迎及びチェックイン」、「観光案内」「レストランや食事の手配」の場面をさらに細分化、具体化してモデル会話を作成し、練習を行った。また、7、8回目は中間試験の準備と実施に当たった。各回の内容を表1に示す。

表1 前半各回の内容

	会話の内容	会話で扱う敬語や丁寧な表現
2	空港で客を出迎える	接客でよく使う敬語表現 （「お～ください」「お～いただく」など）
3	ホテルのチェックインを手伝う （ゴンザレス（2013）をもとに作成）	指示やお願いの敬語表現
4	1日観光ツアーの予定を説明する 町の基本情報を説明する	丁寧な表現 （「本日」「後ほど」「少々」など）
5	観光地のルールや注意事項を説明する	禁止事項や奨励事項を説明する表現 （「～はご遠慮ください」「お～くださいますよう お願いいたします」など）
6	レストランで料理の説明をする 客からの要望を断る	要望を断る表現
7	中間試験の準備	復習
8	中間試験（「一日観光ツアーの予定を説明する、 町の基本情報を説明する」発表）	敬語や丁寧な表現の筆記試験

各回の授業は以下のように進めた。

- 1) 会話で扱う敬語や丁寧な表現の用法と意味を確認し、運用練習を行う。
- 2) その後、愛知県の観光ツアーをガイドするモデル会話を聞いて、内容確認と重要表現の聞き取りを行う。
- 3) モデル会話の敬語を普通語にしたスクリプトを敬語表現に変える練習をする。
- 4) モデル会話を応用して、自分の出身の国や地域の情報に変えたスクリプトを作成する。（授業内で終わらない場合は宿題とする）
- 5) 翌週に自分のスクリプトで発表する。

6回目の会話には、レストランでの説明の中に「客からの要望を断る」というタスクを入れ込んだ。これは、ただ一方的に説明するだけではなく、観光客とのやりとりができるようになることも本コースの目標としているためである。なお、質問や要望への対応は、コース後半の解説タスクにも毎回取り入れた。

7、8回目の中間試験では、5回の会話の敬語や丁寧な表現の筆記試験と「一日観光ツアーの予定を説明する、町の基本情報を説明する」の発表を行った。これは、すでに一度授業内で発表しているが、その内容や表現を改善したものを発表させた。

3.4. コース後半の授業の流れ：その国や地域の名物などの解説

コース後半の9回目～11回目は「出身の国や地域の風土、文化、歴史、社会についてわかりやすく解説すること」を目指した。しかし、ガイドは講演のように風土、文化、歴史、社会そのものをテーマとして説明することはあまりない。むしろ、食事、名所、名物、娯

楽などの説明の中に、風土や文化的、歴史的、社会的な背景情報を盛り込み観光客の知的好奇心を満たすことが求められる。そこで、後半は第二章で述べた「海外ツアーガイド」の業務内容のうち、「観光案内」「レストランや食事の手配」「ショッピングのサポート」の場面を取り上げ、「国や地域の料理」「舞台芸術」「おみやげ」について解説をするタスクを設定し、解説の際に、風土、文化、歴史、社会などの観点から、その名物が生まれ、その土地特有のものとなった背景を説明することを課題とした。例えば、北フランスの料理はじゃがいもがよく使われるのが特徴の一つだが、それは、フランス北部は平野が広く有数のじゃがいもの産地であること、また、貧しい人たちが比較的安価なじゃがいもを好んで食べていたことが関係しているようだ。このようにただ料理を紹介するのではなく、その料理を通して見えるその土地の風土や文化を解説するように指示した。各回の内容を表2に示す。

表2 後半各回の内容

	解説の内容	解説の流れと構成
9	食文化	〇〇料理の特徴3つを説明する
10	舞台芸術	舞台芸術が生まれた経緯と特徴の説明 質問に対応する
11	おみやげ	そのおみやげが名物となった背景の説明 おみやげの種類や例の説明

各回の授業は以下のように進めた。

- 1) 観光ツアーをガイドするモデル会話を聞いて、内容確認と重要表現の聞き取りを行う。
- 2) モデル解説の敬語を普通語にしたスクリプトを敬語表現に変える練習をする。
- 3) モデル解説の構成を利用して、自分の出身の国や地域についての発表アウトラインを作成する。
- 4) 宿題で発表スクリプトを書く。(翌週の授業2日前までに提出)
- 5) スクリプトのフィードバックを受けた部分を修正し、翌週の授業で発表する。

発表では、毎回、客（教師）からの要望や質問に対応するタスクを課した。その際、前半の6回目の会話で学んだ「要望を断る表現」や10回目の「質問に対応する」表現を用いるように促した。

3.5. 期末プロジェクト：バーチャルツアー

12回目～14回目は期末プロジェクトの準備と発表に当てた。期末プロジェクトは、前半に扱った「1日の予定とその町の基本情報を説明する」と「観光地のルールや注意事項を説明する」の会話、そして後半に行った解説3つのうち1つ、合計3つを組み合わせる

日の観光プランを作成し、バーチャルツアーのガイドとして発表するというものである。また、各会話や解説の後には、客（教師、他のクラスメート、ゲストの日本人学生）からの質問にも答えてもらった。各回の内容を表3に示す。

表3 期末プロジェクト関連の授業内容

12	期末プロジェクトの準備①	観光プランを作成する
13	期末プロジェクトの準備②	質問や要望への対応の練習
14	期末試験（発表）	

なお、2022年春学期はオンライン授業だったため、発表はzoomで行った。実際に観光地に行っているかのように演出し、バーチャルツアーの臨場感を高めるため、発表のパワーポイントには文字を入れず全面を写真にして作成させ、発表の際はzoomの、共有画面を背景にして表示する機能を利用するように指示した。また、学習者の国を訪れた日本人観光客役として日本人学生3名に参加してもらい、発表中に質問をしてもらった。

3.6. 評価

授業参加、敬語の練習問題や発表スクリプトなどの課題提出、各会話の発表、中間（筆記と口頭発表）、期末プロジェクトで評価した。発表の評価については、「内容（説明が十分だったか）」「敬語の使い方」、「敬語以外の言葉の正確性」、「発音・流暢さ」「印象（アイコンタクト、笑顔、姿勢、ジェスチャーなど）」を評価の対象とした。

zoomでの発表だったが、カメラから離れて立ってもらい、立ち方やお辞儀などの振る舞い、「左手にご覧いただけますのは……」と言いながら客から見て左側を指すなど、ジェスチャーも「印象」として評価した。

4. アンケート調査

期末プロジェクトの発表終了後にWeb上のアンケートツールを用いて、授業について学習者全体へ無記名のアンケート調査を行い、6名から回答を得た。また、期末プロジェクトの発表時に参加してくれた日本人学生3名にも無記名でアンケート調査を依頼し、全員から回答を得た。

4.1. 学習者へのアンケート調査結果

4.1.1. 「このクラスで上手になったと思うこと」

「このクラスで上手になった／勉強になったと思うこと」について、以下の選択肢の8つの中から1つか2つ選んでもらった。その結果、6名全員が「敬語が実際に使えるよう

になった」を選んだ。次いで「接客のための敬語が使えるようになった」が4名、「敬語のルールが理解できるようになった」が3名と、敬語に関連する回答が多数を占めた。

また、その回答を選んだ理由を尋ねたところ、「いつも敬語が苦手ですが、敬語のルールにも詳しくないし、実際に使える機会もありません。でも、ガイドの日本語を勉強して敬語をうまく使えるようになりました。(①と②を選んだ理由)」「毎週敬語を練習して、発表をしながら敬語が使えるようになってと思います。(②と③を選んだ理由)」「先生が様々な実際の状況に敬語の使い方を教えてくださいましたからです。」など、具体的に場面を設定した上で敬語を使って発表することで、敬語の運用力向上につながったと感じていることがうかがえた。

表4 「このクラスで上手になった／勉強になったと思うことは何ですか」⁴⁾

①敬語のルールが理解できるようになった。	3
②敬語が実際に使えるようになった。	6
③接客のための敬語が使えるようになった	4
④わかりやすい話し方で発表できるようになった。 (スピード、ポーズなどを意識できるようになった)	1
⑤アイコンタクトや笑顔を意識して発表できるようになった	1
⑥上手にパワーポイントを使って発表できるようになった	2
⑦自分の国についての知識が深まった	0
⑧文化的な背景を入れて、自分の国の物や場所について日本語で説明できるようになった	0

4.1.2. 「このクラスを他の人にすすめるなら、どのような点をすすめるか」

「このクラスを他の人にすすめるなら、どのような点をすすめるか」を自由記述で回答してもらったところ、以下のような回答が得られた。ここでも、「敬語」に言及する回答が目立った。

表5 「このクラスを他の人にすすめるなら、どのような点をすすめるか」

敬語の練習がとてもいいですし、たくさんの新しいことを学べますし、とてもいい授業です。
プレゼンテーションが多いものの、いい練習になります。また、先生は敬語をわかりやすく説明します。
敬語！そして、世界中旅行は面白い！
先生方が学生に具体的に観光地の説明の状況を勉強させる点を進めると思います。
敬語を実際に使えられるようになるので、このクラスをお勧めです。
それが練習であるという事実。自分を表現したり話したりすることをたくさん学んでいる印象があります

4.1.3. 「発表の準備で大変だったこと」

「発表の準備で大変だったこと」を尋ねると、敬語に関する回答はなかった。回答は多様だったが、発表のアイデアの考案、観光情報の準備、情報を日本語に訳すことなど、内容に関する回答が目立った。

表6 「発表の準備で大変だったこと」

自分の国の言葉を日本語で訳すことが時々難しかったです。
質問を答えることは難しかったと思います。
大変なことがありますけど、全体として大丈夫と思います。
観光地の情報について準備することは大変だと思います。
アイデアを見つけてスクリプトやスライドを作るのが少し時間がかかります。
たくさん時間がかかりました。

4.1.4. 「ガイドとして働く／ボランティアをすること」について

「将来、日本語でガイドの仕事／アルバイト／ボランティアをしたいか」という質問に対して、「授業を取る前からしてみたいと思っていて、今もしたい」「この授業がきっかけで、してみたいと思うようになった」が3名ずつで、全員が観光ガイドに興味を持っていることがわかった。また、「ガイドのインターンシップがあれば、参加してみたいか」と聞いたところ、全員が「したい」と答えた。

4.2. 日本人学生へのアンケート調査結果

4.2.1. 期末プロジェクト（バーチャルツアー）の評価

バーチャルツアーについて、「とてもよかった」から「全然よくなかった」の5段階で評価してもらったところ、全員が「とてもよかった」を選んだ。理由を尋ねると、以下のような回答が得られた。

表7 「評価の理由」

留学生の熱意がとても伝わってきたからです。日本人が日本語で発表するのも大変な10分程度の発表を、一生懸命行う留学生の姿に自分ももっと頑張らなきゃと背中を押されました。
海外旅行に行きにくい中、実際に現地に住んでいる子に案内してもらっているような気分になれたから。
皆さん細かい部分まで調べていて、かつ、急な質問にも柔軟に対応していたから。

4.2.2. コメント

評価に加えて、自由にコメントやアドバイスを書いてもらった。留学生の発表や授業態度から刺激を受け、自分自身の外国語学習を振り返っている様子がうかがえた。

表8 コメントやアドバイス

<p>軽い気持ちで参加した授業でしたが、学ぶことがたくさんありました。日本人と留学生の授業に臨むやる気がそもそも違うような気がして、もっと真剣に授業に取り組まなければ、と反省させられました。内容に関してはとても素晴らしく、今日案内された観光地すべてに足を運んでみたい、と思いました！出来たら本日一緒に過ごさせていただいた留学生の皆さんと今後もかかわりを持ちたいと思いました。</p>
<p>日本語で旅先や名物などを説明したり、咄嗟の他の人からの質問に正しい敬語を用いて対応することは、ネイティブの私にとっても難しいことなのにも関わらず、留学生の方達はしっかりとできていたところが僭越ながら素晴らしいと思いました。 また発表とは関係なく、最後に発表した子が機械トラブルに見舞われたとき、即座に学生同士で対応ができていてよかったと思いました。</p>
<p>皆さんの日本語に対する熱意が画面を通してでも感じることができました。私も英語、そして第二外国語の中国語の学習にもっと力を入れて頑張らなければいけないと思えました。皆さん、お疲れさまでした！</p>

5. まとめ

本コースは、実際にツアーガイドが遭遇する様々な場面を設定し、自国を訪れた日本人観光客をガイドするタスク、つまり、ガイドの模擬体験を通して接客敬語を身に付けることを目指した。アンケート調査で、学習者は学生生活の中では実際に使う機会がない敬語を現実に近い状況で練習することができたことを評価していることがうかがえた。また、ガイドを将来のキャリアの選択肢として捉えている学習者が多く、本コースでの日本語学習がキャリアにつながる可能性が示唆された。

一方で、観光情報の調査やスライドづくりなど、発表準備を負担に感じる学習者が多かった。特に、後半の「解説」タスクは情報を探し出すなど内容面で苦勞するようである。授業内で準備する時間を確保したつもりだったが、十分な負担軽減には至らなかったようである。今後の対面授業では積極的に声かけをし、アイデアや情報探しなどをサポートしていきたい。

また、期末プロジェクトの発表に参加した日本人学生のコメントから、留学生の発表が刺激となって、外国語学習への意欲を高めている様子が見えかけた。このようなコメントが得られた一因として、留学生のツアーガイドとしての仕事ぶりを見て、キャリアにつながる外国語学習を感じ、自らの言語学習を捉え直すきっかけになったことが考えられる。

外国人留学生別科に所属する留学生の多くは、自国の大学で日本語を学ぶ交換留学生であるが、日本語をどのように将来のキャリアに生かすかということに悩む学生は多い。山内（2019）は、国外の大学で日本語を学ぶ学習者にとって日本語学習が「使うあてのない外国語学習」となる可能性が高いことを指摘し、学習目的を作り出していくためには「学習と人生のつながりの軸」を形成する必要があると述べている。今後も、このコースが留学生の日本語学習と人生のつながりを見出す一助となるよう努めていきたい。

(注)

- 1) 職業仕事情報ポータルサイト「job図鑑」〈<https://job-zukan.jp/overseas-tour-guide/6717/>〉(参照日2022年8月26日)、職業紹介サイト「キャリアガーデン」〈<https://careergarden.jp/kaigai-tourguide/>〉(参照日2022年8月26日)を参考にした。
- 2) 2018年にはとバスツアーに参加した際のガイドの表現も参考にした。
- 3) 1)と同様。
- 4) 「このクラスで上手になった／勉強になったと思うことは何ですか」という質問については、「2つまで選択可」としたが、回答者6名のうち4つ選択した人と5つ選択した人が1名ずついたため、総数が17となっている。

参考文献

- 国際交流基金 (2006) 『日本語教師の役割／コースデザイン』 ひつじ書房、pp. 20-30
- ゴンザレス, ロドリゲス マリア テレサ (2013) 「キューバ人日本語ガイドのための『観光日本語』—ハバナ大学外国語学部用シラバスの提案—」 『創価大学大学院紀要』 35号、pp. 265-280
- 新日本通訳案内士協会 (2018) 「全国通訳案内士試験『英語2次(口述)』合格!対策」三修社
- ソブダー, ゴルザヤー (2010) 「モンゴル国立科学技術大学における『観光日本語』シラバス作成」 『日本語言語文化研究会論集』 第6号、pp. 211-235
- ヤサカ観光バス株式会社 (2015) 『右手をご覧くださいませ バスガイドとめぐる京の旅』 淡交社
- 山内薫 (2019) 『「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした日本語教育-フランスの日本語専攻学生の移動性に注目して』 早稲田大学大学院日本語教育研究科 博士論文
- ラクトマナナ, アンビニンツァ スルフニアイナ (2006) 「マダガスカル人日本語ガイドのための『観光日本語』シラバス作成」 『日本語言語文化研究会論集』 第2号、pp. 277-302

Japanese for Tourism —Learning Japanese through Simulated Experience as a Tour Guide—

Yuriko IDE, Miyuki DOI

Abstract

“Japanese for tourism” is a Japanese seminar course which aims to let students learn honorific expressions for talking with customers of tourism industry through simulated experience as a tour guide. One of the objectives of the course is to provide career options for students who wish to work using Japanese language in the future. This paper reports an overview of the course and the results of a questionnaire survey in the spring semester of 2022.

In each class, students are asked to perform a role play task in which they guide Japanese tourists visiting their home country. The objective of the tasks is to acquire honorific expressions required for customer service through operational practice in realistic situations. According to the result of the questionnaire survey, some students seem to appreciate the opportunities to practice honorific expressions in realistic situations, because they have rarely ever had a chance to use them in real life. In addition, the result shows that many of the students considered being a guide as a future career option, indicating that they connected their language study through this course with their careers.

Keywords : tourism, upper intermediate Japanese, honorific expressions, career tour guide